

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	医療法人緑泉会 かみか企画
------	---------------

公表日 2025年4月1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		大阪市では、お子さま子ども1人当たり2.47㎡の床面積相当が求められており、10人定員で24.7㎡が必要とされている。弊社の延べ面積は424.60㎡と十分な広さを確保していると考えます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切に配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		医療法人という特性を生かし、エレベーターや避難階段が設備され、段差をできる限りなくしたバリアフリーで対応。障がいの特性に応じ配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		換気は少なくとも1時間に1回行い、活動内容に合わせた適切な環境の準備を提供できるように心掛けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		相談室などの個別の部屋を使用し、特性に応じた環境作りをしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日のスタッフ会議をはじめ、すべて記録に残し情報共有できるように努め、PDCA参画に努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所評価を踏まえ、各月に行われている個人面談や個人参観にて保護者等の意向を把握する機会をさらに設け、業務改善につなげたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員間での意思疎通に齟齬がないよう、風通しの良いコミュニケーションができるよう、さらに努力したい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
適切な支援の提供	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修や内部研修に関しては積極的に参加をし、その習得した内容をスタッフで共有し、資質向上に努めております。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		弊社のホームページ又は保護者様へのプリント配布により周知、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントシートにて保護者様にご記入いただいたお子さまの様子を5領域の分野でAI分析した診断結果と日々のお子さまとの関わりを通じてスタッフが感じた課題をもとに適切に作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援計画会議をメインに常に利用児童の情報は共通理解して検討、精査している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画会議をメインに常に利用児童の情報は共通・共有理解して検討、精査し、支援の実践を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化された、5領域の分野でAI分析した診断結果と日々のお子さまとの関わりを通じてスタッフが感じた課題などで状況の把握・確認を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		年度初めに、「ガイドライン」の確認を行い、モニタリング実施ごとに課題や目標を再確認し、ひとりひとりに合わせた支援内容を設定をしている。職員間でも必ず情報共有し、共有した支援を実施している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で検討しながら活動計画を立て実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		個々の発達段階や課題、ニーズに合わせた療育内容を実施し、そのためには職員の外部研修を積極的に行い、常に情報のアウトプットができるように資質向上に努めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別療育を得意としているが、児童の特性や必要に応じて小集団、中集団活動を組み合わせ実施、実践している。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		必ず実施している。児童へのより良い療育ができるように情報共有をチームで行っている。		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		必ず実施している。児童へのより良い療育ができるように情報共有をチームで行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		口頭だけの情報共有ではなく、必ず記録に残し、支援の振り返りを行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		必ず半年に1回以上のモニタリングを実施し、必要に応じて関係機関との連携会議や面談にて支援の検討を行い、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		障害児相談支援事業所様のご協力、ご尽力により、密にお子さまの情報共有や会議を実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		定例会議以外にも、幼稚園の送迎時などには必ずあいさつ以外にも情報共有を行うなど、積極的に連携支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		インクルージョン推進の観点を持ち、サービス担当者会議には必ず出席し、情報共有と相互理解を図っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		定例会議以外にも、幼稚園の送迎時などには必ずあいさつ以外にも情報共有を行うなど、積極的に連携支援を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者からいただいた情報だけでなく、学校のホームページなどを随時閲覧し情報収集につとめ、連絡調整も適切に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		ご家庭のご希望によりまして「〇〇ちゃんのすてきな小学校生活を送るためのサポートブック」を作成し移行支援を積極的に行っている。	開所1年未満のため、児童発達支援から放課後等デイサービスへの移行する児童が今春誕生することもあり今後精査したい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			現在該当する児童の方の在籍がないが、今後の検討課題とする。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			開所1年未満のため、今後の検討課題としている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		可能な限り参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者様との連絡ツール「コミー」で、お子さまの日々の療育方針や様子などをお伝えするとともに、保護者様からもお子さまの状況を教えていただいております。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		令和6年8月や令和7年3月実施の家族支援プログラム・ペアレントトレーニング研修に弊社スタッフが受講し、他のスタッフへ情報提供を行っている。	開所1年目といことで、職員間での研修に重点を置いたため、家族参加や情報提供までは至っていない。今後はプログラム内容を精査して実施の方向を検討したい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		ご見学時とはもとより、ご契約時、パンフレットにてご説明をまた、ご契約時、面談等でもご説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		作成をする前には必ず、保護者様のご意向、お子さまのご意向を伺い作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画の案を面談で確認しそれらを基に再度ご要望をお聞きし、「児童発達支援計画」に同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		個人面談や参観などを通じてご支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			昨年5月に開所し、まだ1年を経過しておらず、実施や支援については、今後の検討課題と考えている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		誠心誠意、迅速かつ適切に対応している。今後もさらに児童や保護者のためにきめ細やかな対応を心掛けたいと考える。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		保護者様との連絡ツール「コミー」はじめ、リタリコブログ・インスタグラム・弊社ホームページにて日々の活動を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の保管に関して「鍵付き書庫」への保管を弊社で義務付けている。	

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	ひとりひとりに意思疎通できる方法、伝わりやすい方法を考慮している。(絵カード・文字・声掛け等)。また、契約書などに関しても拡大文字版やルビ付き、手話などで可能な限り意思伝達できるように心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	「かみかまつり」の実施を通じ、他の事業所のお子さまや地域のお子さまとの交流の機会をもち、開かれた事業所運営を行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	各マニュアルを完備し、教室入口向かって左側の児童用ロッカー台の上に備えている。いつでも保護者が観覧できるようにしている。また、避難訓練などアクシデント発生を想定した訓練を年2回以上実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	いずれのマニュアルも完備しており、教室入口向かって左側の児童用ロッカー台の上に備えてあり、いつでも保護者に観覧可能な状態。また、避難訓練などアクシデント発生を想定した訓練を年2回以上実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	契約時に手交のフェイスシートにて、児童の様々な状況をお知らせいただき、確認をしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	現在、該当する児童はいないが、医師や薬剤師のスタッフが対応する体制は整えている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	職員間での研修・訓練は月に1度必ず実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	送迎には必ず添乗スタッフが同乗し、安全確保に努めている。また、教室内でも防犯カメラを設置し児童が安全に過ごせるように配慮しているがさらに保護者への周知を徹底したい。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	些細なことも記録に残し、今後の課題にし再発防止の検討をしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	法定内研修のほか内外の研修にも積極的に参加し、その内容はスタッフへ共有している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	身体拘束が起きない療育プログラムをこころがけ実施している。保護者には契約時に身体拘束や虐待防止等についてご説明しているがさらに組織的対応についても精査していきたい。		